

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	平野区瓜破地域包括支援センター			
提出日	6	年	6	月 19 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☒	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（		）
活動テーマ	「当事者意識」をテーマとした地域住民への認知症啓発活動			
地域ケア会議から 見えてきた課題	【認知症が起因した支援上の課題】 ・認知症初期の段階では本人やご家族が困ることなく生活出来ているが、症状が 進行し対応や介入が困難になってから相談にケースが多い。 ・認知症の進行に伴い、物取られ妄想や収集癖、介護拒否など様々な症状が現れる ことで家族介護者が疲弊する。 ・認知症の疑いがあり、実際にはない騒音や生活音、臭いが気になると近隣住民や 町会、包括などに訴えがあり、本人に病識がない為、一方的な訴えが続く。 ・認知症の疑いがあるが、医療受診を拒否する為、支援や治療に繋がらない。			
対象	地域役員 及び 地域住民			
地域特性	商業地域のある北部と、大和川があり、のどかであるが高齢者には外出が不便な南部の地域がある。 公営住宅のみで店舗がない地域や昔ながらの戸建て住宅が多い地域など、地域特性は様々である。 高齢化率にも特徴があり、瓜破：30.4% 瓜破西：22.6% 瓜破東：36.5% 瓜破北：39.9%。 平野区全体の28.1%に対し、瓜破全域で30.9%と高齢化率は高い地域である。			
活動目標	・「なぜ早期発見が大切か」「まずどこに相談するか」などを実際の近隣医院の紹介 を行うことで身近なこととして伝わるように工夫し、認知症に対し当事者意識を持てる取り組みとして認知症啓発活動をひらのオレンジチームと協働して実施する。 ・孤立化防止の観点から、地域資源に繋がる啓発を認知症啓発と併せて生活支援コーディネーター、地域福祉活動コーディネーターと連携し実施する。			
活動内容 (具体的取組み)	・R5.10.21瓜破西こえかけ隊（見守り活動）のフォローアップ研修として認知症地域支援推進員と協働し、認知症に関する講座と見守り活動のポイントについて講座をさせていただき、地域の見守り活動を行っている中で気になる住民の方がいた際に認知症初期集中支援チーム（ひらのオレンジチーム）や地域包括支援センター（以下「包括」という）に相談が繋がるように啓発を行った。 ・また、平野区社会福祉協議会や認知症地域支援推進員と協働し瓜破北と瓜破西にて「にこにこ教室」（R5.4.6、4.24、10.5）を実施し、認知症地域支援推進員による認知症についての講義と、包括による認知症予防として脳トレを実施した。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・見守り活動（声かけ隊）を通して認知症の基礎的な知識や、認知症の早期発見・早期治療に繋がるような内容を地域へ伝えることができた。 ・認知症予防として、自宅でも実施出来るような脳トレを紹介した。			
今後の課題	・広く地域の方々に認知症に対する正しい知識を持っていただく為にも、平野区キャラバンメイト連絡会と協働して若年層に対する認知症キッズサポーター養成講座を実施し、若年層に対する認知症啓発だけでなく、講座資料を保護者にも配布することで、保護者世代にも認知症に対して関心を持っていただくきっかけになれば考える。			
※以下は、区運営協議会事務局にて記入				
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月17日（水）			
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性	☒ 継続性	☒ 浸透性	☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・認知症の早期発見に力を入れている。 ・認知症に対する理解がもっと若い世代に広がると思います。 ・見守り活動（声かけ隊）を通して認知症の基礎的な知識や早期発見・早期治療につながる対応。自宅でも実施できる脳トレの紹介。 ・認知症の症状発症は本人に自覚がなく、家人が実感する。医療受診の拒否、施設入所に際し入所待ちなど大変だと思います。 ・地域別での研修や講座、若年層に対しての認知症講座など、これからも続けていっていただきたいです。 ・見守り活動（声かけ隊）で認知症の方、早期発見・早期治療に繋がる内容地域へお伝えできたこと感動しました。			